

岩手大学AO入試合格者入学前教育の取り組み

—合格者と在籍高校への教育的負担に配慮—

永野拓矢 (岩手大学 大学教育総合センター 入試部門)

はじめに

岩手大学では昨秋2回目のAO入試を実施した。文系学部(人文社会科学部)のみの実施で募集人員が9名(学部定員の4%)と小規模入試であることや出願が8月末で選考が9月中(2回)と早期実施のため全国的な注目は少ないものの、初年度は71名(実質倍率6.4倍)、2年目でも56名(同5.3倍)の志願があった。受験者も北海道から沖縄まで全国からあり、地方大学文系学部のハンデを感じさせぬ入試であった。

本学AO入試は「教職員合同で面接(1次選考)を行う」こと(永野 2008)の他に「入学前教育」にも特色を持つ。合格者や在籍高校の「費用および量的な負担」を押さえ、合格者とのコミュニケーションの充実を図り、高校学習へのサポートを第一義とすることである。合格者の大半が経済的に厳しい東北地方の出身であること、さらに当該地区の高校では推薦やAOなど、早期合格者に対しても一般入試組と同様にセンター試験までは一緒に学習指導を行う傾向があることに鑑みて、本学独自の「手作り入学前教育」を実践した。

1. 岩手大学AO入学前教育

1.1 保護者同伴のオリエンテーション

岩手大学AO入試合格者の「入学前教育」の詳細は10月下旬の合格者オリエンテーションにて告知される(表1)。当会は合格者のほかに保護者出席を歓迎したユニークな企画である。当日は大学祭最終日にあたり、遠方参加者(特に保護者)に対し本学学生の活気ある姿や研究発表など、賑やかさ・華やかさに加えてアカデミックな一面も披露できることで本学への理解を深める一役も担っている。広大なキャンパスの見学や観光地として名高い晩秋の古都盛岡への誘いは保護者からも高い満足度を得ているが、真の保護者同伴の狙いは「入学前教育への理解と間接的指導の期待」であった。

席上では合格者と保護者に対し入学前教

育の重要性について説明し、「家族ぐるみで受験生を継続する、させる」ことへの周知を図っている。

1.2 岩手大学の入学前教育組織

本学は入学前教育担当組織が2つある。全学組織(入学前教育小委員会)とAO入試専門のアドミッショングループ(以下AG)である。前者はAO・推薦入試合格者等を対象とした「読書レポート添削」や「本学専用e-Learningシステム(プレ・アイアシスタント)活用」等を実施している。AO合格者も対象だが、案内が推薦合格者に合わせた12月下旬になるため、10月上旬に合格したAO入学者にとって空白期間が生じることからそれを埋めるべく発足されたのが後者のAGによる入学前教育であった。

以下、本稿では「A0 入試合格者対象の入学前教育」に対する報告を行う。

1.3 「A0 入学前教育」の狙い

10月に合格した者に対する合格以後の受験生としてのモチベーション維持は難しい。しかし一般に最も学力が伸びるのは高校3年の秋以降といわれる¹⁾。本学A0入試では学力検査は課さないが、1次選考で「要約力」や「自身の実績」そして「自己アピール度(積極性)」を評価対象としている(表2)。さらに2次選考では進学課程に関わる半日がかりの選考を行う。1・2次選考にて広義では学力的検査も含まれるが、合格後は早々に受験勉強から解放される。

しかしながら合格後、「学力的に最も伸びる時期」を無為に過ごすのであれば大変惜しいことである。また入学後の学習意欲に対しての懸念が実施学部からも指摘されていた。合格後も「入学保証」の上で、じっくり研鑽を積むことも貴重であると訴え、「受験生を継続」してその頑張りを「センター試験自己採点の報告」を呼びかけている²⁾。

表1 A0合格者オリエンテーション式次第

日時：平成20年10月26日(日) 大学祭最終日
場所：岩手大学人文社会科学部 第1会議室
<式次第>
8:30 集合、開会の辞
8:35 副学長(AG長)、学部長祝辞
9:10 合格者自己紹介、保護者挨拶
9:50 副学長特別講演
10:30 <u>入学前教育について</u>
11:00 大学生協からのお知らせ
11:30 学内散策(当日は雨天のため短縮)
12:30 閉会の辞、解散
12:30~ (希望者) 学生寮、奨学金相談

<アドミッショングループ(AG分科会)メンバー>
 AG長(教育・学生担当副学長、岩手大学理事)、入試部門専任教員、学部兼務教員(3名)、学務部部长、入試課課長、主査、主事など 計10名

1.4 地区事情に考慮した入学前教育

「(任意ながら)センター試験の受験」を設定した要因として高校の充実した進学・学習指導態勢があげられる。

本学の所在する岩手県を含めた東北・北海道地方の高校では、進学校はもとより非進学校や実業系高校等も(受験予定者に対して)センター試験の「対策補習」を行っている。期間は長く、12月以降は本格化する。しかも一般に自由登校期間となる2月以降も出席をとって特別授業(国公立大学二次試験対策)を行う高校も少なくない。

東北圏外の都市部の高校も変化が表れていた。平成15年以降に各都道府県にて順次導入された学校・教員評価制度による高校「単位」における積極的指導の特色化である。特に公立校では(受験指導は)地方では「組織」として学校で行う一方で、大都市圏では「個人」に委ねる(塾・予備校通い)傾向が見られていたが、当制度導入により進学指導の「地域格差」が縮まりつつある。こうした近年の積極的な高校学習指導において合格者に新たな課題を課すことは「高校の教科指導」に新たな負担が生じることや、「入学前教育の指導も高校教員に求める」者の出現も懸念されたことから量的な課題設定は断念している。

以上から、本学A0入学前教育は地域事情に鑑み、「高校指導の邪魔をしないこと」および「A0入試を導入した学部の要望に応えること」で目標を「センター試験の受験と自己採点報告」として「(センター試験)受験までの学習方法と経過報告レポートを提出させ、大学(AG)側からコメントを付して返信することで、密なコミュニケーションを構築する」こととした。

教材は在籍高校の配布資料等を積極活用した。受験の追い込み期は「学習課題の消化不良」に陥りやすい時期でもある。復習による学習効果の高まりを目的として高校学習へのサポート役に徹した。

1.5 指導上の留意点

何をもって学力向上の評価とするのか。どのような指導（コメント）を行うのが効果的か。さらにそれをセンター試験の得点に反映させるか。

AGでは客観式問題集および模擬試験の活用法として過去に解き放しとなっている“惜しい誤答と怪しい正答”の「再確認」をすることからアドバイスをし、「隔週で改めてその問いにチャレンジすること」等の助言を行った。受験生にとって「常に新しい問題を解くのではなく、過去に自分が解いた問題に何度も取り掛かる」ことに意外感を持つ者もいたが効率よい学習法のひとつに「過去に解いた問題を複数回解くこと」がある。しかも経済的でもある。繰り返し学習の励行を返却コメントに記した。

添削指導等はAG教職員全員で行っている。添削の叩き台を高校の受験指導、教科指導に詳しい入試専門教員が作成し、AG教職員全員に意見を求め、加筆修正を経て完成させる流れである。

添削コメントは「教科的指導」は行わないものの、「効果的な模試活用と試験の時間配分および予復習について」などの学習アドバイスは積極的に行った³⁾。「コミュニケーション」を継続することで、学習意欲の向上につながり、岩手大学への入学意欲の高まりを維持できたと内部分析している。

最終報告時にアンケート調査を実施した（表4）。個別コメントへの満足度は高く、批判的な意見は見られなかった。また、合格高校へは事前に入学前教育を実施する文書を学校長宛に送付していることもあり、高校側からの了解も取られていることも無形の後押しとなっている。さらにオリエンテーション時の保護者への呼びかけも効果が感じられ提出率は全て100%であった。

2. 「手作り入学前教育」の実践

2.1 第1弾 「自己分析シート」の提出

第1弾（11月末締め切り）は「（自身の）得意科目の向上・苦手科目の克服」である。2科目以上選び、具体的目標を掲げ（校内テストの成績や模試成績など）、さらにセンター試験の目標点を記入する。12月にどのような学習を行うか「自己分析および学習の計画一覧」を提出する。

合格者の在籍している高校の大半は「センター試験対策」に差し掛かる時期である

表2 平成21年度AO入試の概要

実施学部：人文社会科学部

募集人員：9名（人間科学、法学・経済、環境科学課程は各2名、国際文化課程は3名）

実施時期：[出願]平成20年8月20～25日 [1次選考]9月7～10日、[2次選考]9月29日

運営：[1次選考]AG（アドミッショングループ）にて実施（選考時間20分、「要約」「実績」「アピール」の“3カ”を評価） [2次選考]当該学部で実施（選考時間6～7時間、「集団討論」「ポスターセッション」「個別面接」など課程によって異なる）

～<参考>入試状況（ ）は前年度～

志願者56（71） 1次合格者30（26） 2次（最終）合格者11（11） 実質倍率5.6（6.4）倍

ことから、高校の授業への真剣な取り組みを決意する項目が多かった(表3)。

表3 第1弾「克服・向上」テーマ(抜粋)

苦手科目の克服：「英語(文法と単語)(長文読解)」「日本史(戦後史)(古代分野)」「数学ⅡB(微積・ベクトル)」「生物(遺伝)」「数学ⅠA」「世界史全般」
得意科目の向上：「英語全般」「現代社会全般」

2.2 第2弾「分析シートへの報告」

第2弾(12月末締め切り)は「学習成果」の報告である。「自己分析・学習計画」の提出からわずか1ヶ月後ではあるが、当期は学力的伸長が著しい月間である。

個人差は見られるが、彼らの頑張りはAGに十分伝わった報告書であった。封書に実行したノートを貼り付けて提出した者や、繰り返し行った模試の点数の伸びをグラフ化した者など、様々な工夫が認められた。また、緊張感を維持して高校の特別補習等にも臨めたという。のちのアンケートにも「この企画のお陰で12月を受験生として乗り越えることが出来た」との感想が複数あった(表4)。

第2弾の返却はセンター試験直前ということもあり、指導的文言は控え「センター試験直前にやっておくこと」など、激励コメントを付して返信した。

2.3 課題

本学の「手作り入学前教育」に対し、全員から「良き評価」を受けたわけではない。アンケートによれば「もっと厳しく課題を出して欲しかった」と不満意見も見られた。首都圏高校出身の合格者である。

首都圏の公立進学校では、依然として

「(高校3年生の)12月以降は3時間授業で2月は自由登校」等の従来型も存在する。当地区の高校出身者にとっては「高校の指導に沿って…」への共通理解は難しい。全国からの受験生を募集するAO入試においてこうした事態を検討することも今後の重要な課題である。

2.4 自己採点および入学者成績追跡

平成21年1月第3土日曜日に実施されたセンター試験の自己採点の報告にて「AO入学前教育」は終了した。

自己採点結果は大半が「一般入試合格者には届かない点数」であった⁴⁾。しかし低得点だった科目に対するコメントは「一般入試組に負けない力をこれからもつける」と決意を新たにした声が多かった。また「高校で1月末から開講される岩手大学の二次対策の補習に参加します」と付け加えられたコメントもあった。

「モチベーション維持」を求める本学の狙いとしては十分な回答である。「合格済み」の学生にとってセンター試験受験は一虚礼に過ぎない。それを如何に受験意識を維持させて過ごさせるか、また満足されるサポートを行うことが「入学前教育」の重要任務のひとつであると考えている。

なお、前年度入学前教育を同様に実施したAO1期生(11名)の入学後の追跡調査では1年次成績上位10%(23名)に3名が含まれていた(学部平均以上は7名)。1期生の活躍と2期生の頑張りに対し、入学前教育は十分な成果があると結論づけできよう。

表4 「入学前教育を終えて」アンケート

(1) 合格者レポートについて

- 「よかった」…9 「可もなく不可もなく」…0 「改善を要する」…1
- ・この課題がなかったら受験生としての勉強を再開するのがもっと遅くなっていたと思う
 - ・センター試験の勉強につながりとても助かった
 - ・この課題のおかげで苦手科目と得意科目の勉強のバランスがうまくとれた
 - ・自己分析は現実と向かい合える貴重な機会だった。良い意味で自分への刺激になったと思う。
 - ・合格後は受験ペースを崩し、レポートを出してもあまり役立たなかった

(2) 提出期限の設定について

- 「適切である」…6 「可もなく不可もなく」…4 「改善を要する」…0
- ・1ヶ月の学習予定を立てることに役立った

(3) 評価コメントについて

- 「適切である」…10 「可もなく不可もなく」…0 「改善を要する」…0
- ・「この調子で頑張ってください」と励ましのコメントとを頂いてますますやる気が出た!
 - ・全体に目を通してもらえることや一つ一つのコメントがとても良かった。次の学習予定を考えるのに便利だった。
 - ・他の合格者がどのように取り組んでいるか分かったのがよかった。ただし、もっと早く返信して欲しかった。

※回答者 10 名 (回答率 90.9%)

3. 総括

実施開始2年目と年数が浅いため、中間的な報告になるが、地方国立大学でしかも文系学部の場合は「量的な入学前教育は不必要」である結論に至った。費用を掛ける代わり⁵⁾に合格者とのコミュニケーションを強化することや、既存の教材・テストなどを活用することにより、「積極的な学習(進学)指導をおこなう地域」の高校とも目的を共有(センター試験受験等)することが可能であることも本件によって得た知見である。入学前教育の使命は「早期の専門性を身につける」ことも重要だが、本学のような地方大学の場合は「受験生としてのモチベーションを維持させる」ことも最重要ポイントであると考えられる。

〈注〉

1) 年間 300 校の高校訪問を行う、本学入試専任教員の高校ヒアリング調査から

- 2) 学部からの要望事項として(平成 21 年度 AO 募集要項 11 ページ)「合格後も学習を続け、大学入試センター試験を受験することが望ましい」と付記してある
- 3) 岩手大学一般入試合格者に入試に関するアンケート調査報告や前職の予備校で受験生指導経験のある入試部門専任教員の指導法をベースとしている
- 4) 点数は少人数であることや自己採点による不正確さから割愛する
- 5) 当入学前教育における合格者費用負担は切手代¥270(¥90×3回提出分)のみ

参考文献

永野拓矢, 2008, 「岩手大学AO入試の取り組みと課題 一初の教職員合同面接による効果の検証一」『大学入試ジャーナル』第 18 号, 143-146

補足 「分析シート」と「コメント」

- 1. 第 1 弾「得意科目の向上」 or 「苦手科目の克服」自己分析シートの提出
- 2. 第 2 弾 自己分析シート「報告」

11月までに出す
得意・得意科目(分析)自己分析シート (得意以上(教科・分野は自由)提出のこと)

① 得意分野の克服
得意分野の向上
(どちらかに○をつけてください)

氏名: [XXXXXXXXXXXX] (XXXXXXXXXXXX) 得意科目: [XXXXXXXXXXXX] (XXXXXXXXXXXX)

得意(得意) 得意・分野の自己分析 (得意・分野名)
英語の文法と単語
(自己分析) 英語の文法・単語が苦手で、模試では文法問題があまり得意でなかったが、予備校に入ってから、単語と文法を並べて学習することで、模試でも文法問題が得意になり、単語も得意になった。時間がかかりましたが、効果がかなりあります。

得意(得意) 得意・分野の克服 (向上) (得意)
(1) 得意までの方法
文法・単語の勉強は、自分で決めた順番で、毎日少しずつ進めていく。単語は、模範辞書と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。文法は、文法問題集と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。

(2) 得意までの経過
11月の模試では、英語の文法問題が得意になり、単語も得意になった。模範辞書と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。文法は、文法問題集と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。

得意(得意) 得意・分野の克服 (向上) (得意)
(11月までの経過)
文法・単語の勉強は、自分で決めた順番で、毎日少しずつ進めていく。単語は、模範辞書と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。文法は、文法問題集と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。

向上のきっかけ
(11月センター試験までの経過)
模範辞書と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。文法は、文法問題集と単語帳を使い、毎日少しずつ進めていく。

得意(得意) 得意・分野の克服 (向上) (得意) 150 A

コメント (大学記入)

11月までに出す
得意・得意科目(分析)自己分析シート

氏名: [XXXXXXXXXXXX]

学習状況について報告してください (ノートや問題集の添削などのコピーを添付)

英語一科目に集中して勉強したので、センター試験まで問題を解くのに苦しみませんでした。(別紙にノートのコピー)が得意になりました。単語も得意になりました。時間がかかりましたが、効果がかなりあります。

英語一科目に集中して勉強したので、センター試験まで問題を解くのに苦しみませんでした。(別紙にノートのコピー)が得意になりました。単語も得意になりました。時間がかかりましたが、効果がかなりあります。

・11月の自己分析シートについてコメントがありました。

コメント (大学記入)

<送付先>〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34 岩手大学 大学教育センター 入試課 主任教員 水野 行

得意分野を記入してください (別紙の用紙でも構いません) (送付先)〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34 岩手大学 大学教育センター 入試課 主任教員 水野 行 (紙に添え入りですが、別紙用紙はご用意いたします)

自己分析の提出ごうさまでした。さんの結果と振り返りがおこなわれる報告書でした。「英語」「日本史」ともにしっかりと自己分析が提出されています。進学校に在籍しているため12月以降の情報はセンター対策中心になるとは思いますが、さんにとっては好都合です。入学後にセンターレベルの知識を持っていると授業が楽になります。

<各教科分析の要点>
英語の文法と単語... 得意分野の克服
下線部①の「英語ワークや模範などで分らなかった単語をルーズリーフにまとめる...」とありますが、得意分野がある場合は必ず「模範の辞書」を参考にするようにしてください (模範辞書は大学が提供しています)。
下線部②「(11月以降) 新しいものには手を動かす...」それが正解です (この時期に新しい単語帳を導入しても構わないものがあります)。「12月に単語帳を買おう...」なら今の時点で単語帳を準備しておくことは良いです。そして③と同じく不明な点については別のノートで書き込み、同じ分野の勉強は得意分野で得意分野に記しておきましょう。また、模範辞書のノートを書いておくことで大抵な学力向上の期待ができます。

「日本史の特に古代分析」... 得意分野の克服
(例えは) 英語が得意だから、英語を集中的に勉強しよう。日本史は得意だから向いていたら学習しよう...といった気持ちになったことはありません。回ったことに日本史も地理分野は「半信半疑」という感じでしたが、たちまち自信がなくなってしまいました。資料集や授業録の活用も英文訳と大学を志望する受験生は「英・国・地理」に教科書を使って学習しているため、特に地理はその量がかなり多い (全教科得意なく勉強する) 国立型の生徒は (私立型の) 得意分野がなかなか高くない傾向があります。

さんの場合はすでに合格されているので「自信値 70」を) と力む必要はありません。50あれば十分です。この数字をキープしてセンター試験では平均点プラスアルファ (70点くらい) を目指してください。

以上です。さんのこれからの一歩の振り返りに期待しています。

11月発表の報告も次々のご提出。大変お疲れ様でした。さんの振り返りが見えます。英語・数学ともに「ノートのまとめ方」も秀逸です。この返信が書く頃はセンター試験直前かと思いますが、一般入試に欠かせない単語 (特に英語) をあげてください。期待しています！！

センター進出時の自己分析が 11月以降で？おこなったことは素晴らしいです。英語分野にも有効ですので、この機会に得意分野を記入してください。

センター試験の終了、お疲れ様でした。すでに進校前ですので2週間ほどはありますが、今まで頑張ったことをより積極的に取り組む覚悟は固まったという自信よりも「正解だったけど面白いだった」という問題を得意分野に記入するとモチベーションがアップします。

★お楽しみ
センター終了後は「自己分析」の報告をお願いします。その後は「報告レポート」として送りますが、英語分野はこのセンターで終了です。報告レポートは単なる感想文ではありません。大学生は学力だけでなく「文力」も重視されます。大学の授業でも「論文形式」が大学です。入学前に自分の「まとめる力」や「文力」を養ってください。

第 1 弾事例 (左表) 合格後も学力向上への意識を高めるため提出された計画に対して個々に具体的なコメントを付して返却している。模擬試験や学校の進学補習状況など、在籍地域、高校によって事情は異なるが、有効な学習ポイントには下線部を引いてアドバイスするなど工夫を行った。

第 2 弾事例 (右表) 1回目に対する成果および反省報告である。返送時期がセンター試験直前 (1月中旬) になるため、指導的な文言は控え、入試に対する心構え他、激励調のコメントを行っている。